

最終章 その2

冒頭にも申し上げた通り、どう解釈されるかはお任せ致します。

ただ、私にはこれ以上に自分の中で腑に落ちる結論はありませんでした。

この年齢によってわかってきたことではありますが、この世界にはいまだ解明できない出来事が山のように残っています。

どうか固定概念に惑わされず、自分の直感に正直に耳を傾けてあげることにより、文献やスマートフォンで調べて出てくる事以外の新たな事実が浮かび上がるかもしれません。

以上が、私が経験した不思議な体験談でありました。

しかし、この記事を書き始めてからの事です。

私の妻が頻繁に病院に見舞いに来てくれているのですが、私の還暦の誕生日も近いということで先日息子も一緒に来てくれました。

特に仲が悪いわけではないのですが、息子が思春期になってからは会話もあまりできていなかったのです。大学の入学が決まったことは妻から聞いておりましたが、春から一人暮らしを始めると聞かされました。私は喉の病の為あまり話す事ができない状態でしたが、少しでも楽しみにしている息子の様子を見ることができ、ようやく一安心できました。

私も退院できたら一度妻と様子を見に行きたいと思い、息子が帰ったあとに妻に息子の引っ越し先を知りたいと伝えました。

妻は息子から預かっていたパンフレットを私に差し出し、それを見た瞬間。私は頭が真っ白になりました。

その建物名は、ガルディオット。お話ししたこのアパートです。

外観はさらにリノベーションされていましたが、場所も間違いありません。しかも、驚くことにパンフレットに映り込んでいる車、当時203号室の男性の車です。まだ住まれているということなのでしょう。

妻を呼び止め、声を振り絞り言いました。「止めてくれ」

私は、運よくこのアパートを抜け出すことができたと思っていました。しかし、私たちはここから抜け出せていなかったのです。

終わり。